

NAGOYA NOH THEATER
MARCH 2016

平成28年

3月5日(土)

14:00開演(13:30開場)

◆13:45から開演前ショート解説があります◆

前売券発売1月5日(火)



新作能面を披露します
福井県池田町の「第13回全国新作能面公募展」
において、秀作の能面「小面」(作者:加地幹生さん/
大阪府)を本公演の能「山姥」のツレで使用します。



撮影:ウシマド写真工房

名古屋能楽堂
三月定例公演
— 徳川家康公没後四百年記念「家康ゆかりの能」 —

能

「山姥」(観世流)
シテ 久田勘鷗

狂言

「雁大名」(和泉流)
シテ 井上松次郎

ご来場の方に抽選で
素敵なプレゼント!

本公演にご来場の方の中から
抽選で10名様に能楽グッズを
プレゼントします。

※ご入場の際にお配りするパンフ
レットに応募券(ご応募の締切は
休憩終了まで)が入っております
のでご確認ください。

慶長十年[1605]七月七日、伏見城で家康は秀忠とともに
〈山姥〉を含む能八番狂言七番を観ている。翌日も能八番狂
言七番が上演され、〈雁大名〉はこの二日目の演目にある。

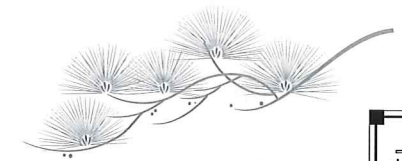
伏見城は秀吉が築き、秀吉の死後はその息子・秀頼が入る
が、翌年には家康が入城することとなる。関ヶ原の合戦の後、
家康はここで政務を執り行った。家康、秀忠、家光の三代に
渡って將軍宣下を受けたのもこの城である。家康の死後廢城
となるまで、伏見城は政治の拠点として機能してきた。

主催



公益社団法人 名古屋市文化振興事業団 [名古屋能楽堂]

公益社団法人 能楽協会 名古屋支部



◇開演前ショート解説(午後四時四十五分から午後五時) 『山姥』について 吉沢 旭

狂言 雁大名(和泉流)

シテ 大名 井上松次郎
アド 太郎冠者 鹿島俊裕
アド 雁屋 野村又三郎
後見 今枝郁雄

能 山姥(観世流)

前シテ 山の女 久田勘鷗
後シテ 山姥
ツレ 遊女百万山姥 久保信一朗
ワキ 従者 飯富雅介
ワキツレ 供人 橋本 幸
ワキツレ 供人 相元正樹
アイ 里人 今枝郁雄

笛 大野 誠
小鼓 船戸昭弘
大鼓 河村眞之介
太鼓 加藤洋輝
後見 祖父江修一
梅田邦久
伊藤裕貴 松山幸親
吉沢 旭 清水義也
八神孝充 大西礼久
本田 勲 清沢一政

(午後四時十五分頃終了予定) 『イヤホンガイド』

日本語/三苦佳子

(愛知産業大学短期大学 非常勤講師)

英語/和爾玲子(能楽イェホンガイド名古屋)

都合により出演者等が変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

◇狂言解説「雁大名」(がんだいみょう)

都での訴訟事が叶い目出度く帰郷の運びとなった田舎大名は、在京中世話になった人へ振舞う馳走を買い付けて来るよう、召使(太郎冠者)に命じます。出掛け召使は雁屋で初雁(はつがん)を見つづけるも代金は持ち合わせず、また掛売での求めにも応じてもらえず...

『初雁』とは、大陸から東北地方などに越冬のため飛来する雁の群れを指し、その名はかつて上野一青森間・盛岡一函館間を駆け抜けた特急「はつかり」の由来にもなっています。また秋を代表する季語として取り上げられるなど、中世では季節を感じる高級食材として珍重され、持て成しの格好の素材でした。当時は鳥類も魚屋で商ひされていた史実から、「肴屋町」という地名が狂言に登場します。「雁盗人」の題名で上演されていた時代もあり、大感流では近世靡曲となっているそうです。雁の表現にも大感流は洞烏帽子、和泉流は羽箒(はぶら)または大きな羽根を用いて演じています。(井上菊次郎)

◇能解説「山姥」(やまんばん)

「山姥が山廻りする」ということを曲舞(くせまい)に作って有名になった都の遊女が善光寺へ詣るため、三人の男性とつれ立って越後・越中の国境の境川へ着き、けわしい山を登りはじめる。すると俄かに暗くなり、一人の女が出てきて山中の庵へ一同を連れ帰り、遊女に山姥の曲舞を所望し、実は自分が真の山姥であると告げ、月が出るころになれば、まことの姿をあらわして自分と共に舞おうと告げて消え失せる。夜になり、遊女が諷い(うた)はじめると、約束どおり山姥もあらわれて、ともに曲舞を舞い、その中で、人間とのかかわりや、自然の壮麗な美しさなどへの執着心を述べ、名残を惜しんで行方も知らず消え失せてしまった。

信濃の深山をバックにした壮大な能。このシテは、鬼女というより、雄大な仙女というべきだろう。山姥という超越的な者に人間を置き替えて、輪廻や妄執を断ち切り難い我々の思いを述べている。クセの中では人間とのかかわりを、又キリにおいては、春の花、秋の月、冬の雪など、自然の美に対しての断ち難い妄念、妄執が述べられている。しかしその妄執はある美しさをもって決して否定的ではない温かみを含んでいる。即ち、妄執を捨てることを理念的には知りつつ、しかし捨てきれずに人生を経ている私共の想いが、そのままこの能の想いであるようだ。それにしてもこのワキはツレに対して何であろう。俗にいうパトロンであろうか。

次に、雄大にして壮麗な後シテの冒頭の一節をここに呈示しておこう。

あら物妻の深谷やな。あら物妻の深谷やな。寒林に骨を打つ。霊鬼泣く泣く。前生の業を恨む。深野に花を供する天人。返すがえすも幾生(よみがへ)の善を喜ぶ。いや。善悪不二。何をか恨み。何をか喜ばんや。萬箇(マンカク)目前の境(カミヤ)懸河(カミガハ)びよおびよおとして。巖(イハ)嶽(トキ)たり。山また山。いづれの工(カサガキ)が。青巖(アヲイハ)の形を削り成せる。水また水。たれが家に。か碧潭(アヲイハ)の色を染め出せる。

サン・サン・サンの作品に「死の舞踏」という交響詩がある。(ピアノ曲もある)木枯らしの吹く寒い夜、死神は墓から出て来奏を奏でる。蒼白の骸骨はカタカタと音を立てて闇の中で踊る。この能においては山姥は「寒林に骨を打つ。霊鬼泣く泣く。前生の業を恨む」と詠歎する。骨を打つ。霊鬼と花を摘む天女。その対比を「いや、善悪不二」と強く否定する。同じく嶮々たる山と碧潭の水...。スゴイ詩句が私共の思いを無限に延長させていく。(泉 嘉大)

チケット料金(税込み) *前売券発売日 平成28年1月5日(火)

Table with 3 columns: 指定 (Reserved), 自由 (Non reserved), and 学生 (Student). Rows include Advance sale and general pricing.

*当日券は自由席のみ500円増となります。
*事業団友の会 会員は1割引
*名古屋能楽堂・名古屋文化振興事業団チケットガイド・事業団施設窓口の前売のみ
*上演中の写真撮影・ビデオ撮影・録音は、事前に許可を受けた方以外のご遠慮下さい。*未就学児のご入場はお断りいたします。

前売券取扱所 Ticket Office
名古屋能楽堂/TEL.052-231-0088
名古屋文化振興事業団チケットガイド/TEL.052-249-9387
中京テレビ事業/TEL.052-957-3333
栄プレチケ92/TEL.052-953-0777
チケットぴあ/TEL.0570-02-9999 (Pコード 448-383)

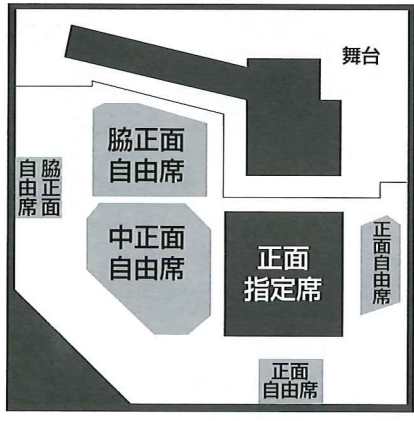
*お近くのセブンイレブン、サークルKサンクスでもお買い求めいただけます。
*都合により出演者等が変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。
*外国籍が証明できるパスポート等を持参された方には前売・当日とも1割引致します。(名古屋能楽堂取扱いのみ)

To visitors who bring their passports or the likes which prove respective foreign nationalities, advance/day tickets are available at a 10% discount. (at Nagoya Noh Theater only)

●イヤホンガイド 演能の解説が聞ける受信機を無料でお貸します。(日本語/英語) Noh performance Guide/Rent-free for a wireless headset(Japanese/English)

●併設の「御食事処 城」(184席/052-222-6699)がご利用いただけます。

お問い合わせ/名古屋能楽堂 TEL.052-231-0088 FAX.052-231-8756 http://www.bunka758.or.jp



*地下鉄・市バス等公共交通機関をご利用ください。
ワクワク・ドキドキ特典がいっぱい
「友の会」会員募集中!

公益財団法人 名古屋文化振興事業団 TEL.052-249-9385